

＜警察庁分析＞死亡事故 「薄暮」はやっぱり多かった！

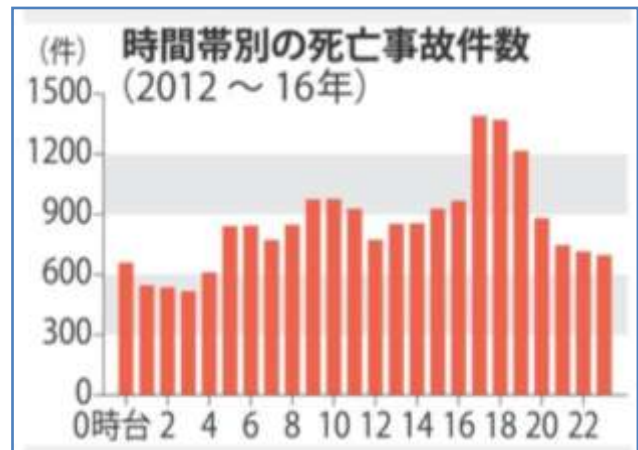
9月14日 yahoo ニュース＜毎日新聞＞

◇「秋や冬のたそがれ時」初めてデータで裏付けられる

警察庁が2012～16年の5年間に発生した交通死亡事故2万431件を分析したところ、日没時間と重なる午後5時台から午後7時台の3時間に起きた事故件数は他の時間帯に比べて1.7倍に上っていたことが分かった。

また、日没前後1時間の「薄暮時間帯」の事故は11月が最多で、最少だった6月の3倍だったことも判明した。

警察庁は「秋や冬のたそがれ時に死亡事故が多いと言われてきたが、初めてデータで裏付けられた。今後の安全対策に役立てたい」としている。



死亡事故を時間帯にみると、最も多かったのは午後5時台（1389件）で、午後6時台（1370件）、午後7時台（1216件）と続いた。最も少なかったのは午前3時台（517件）だった。早朝から昼前まで徐々に増加し、その後いったん収まるが、午後5時台になると急増していた。午後5時台から午後7時台の3時間の平均件数は1325件で、他の時間帯の平均件数784件を大きく上回っていた。

一方、薄暮時間帯の死亡事故を月別でみると、最多は11月の358件で、最少は6月の119件だった。夏から冬にかけて増えていることから、同庁の担当者は「日没時間が早まり薄暗くなっているのに、ライトの点灯が遅れるドライバーが多いのでは」とみる。

また、ライトをハイビーム（上向き）にしていない乗用車が夜間に歩行者をはねて死亡させた225件を分析したところ、ハイビームにしていれば126件（56%）は事故を回避できた可能性があることも分かった。警察庁は事故防止の効果が確認されたとして、ハイビームの使用を推奨している。

このほか、同庁はシートベルトの使用と致死率（死傷者に占める死者の割合）の関係を調査したところ、運転席で不使用の場合、致死率は53倍、後部座席では3.8倍になることも分かった。また、チャイルドシートを不使用の場合も致死率は約7.9倍に上がっており、着用を呼びかけている。

